

議案第 1 号

令和 2 年 地域内フィーダー系統確保維持計画の変更について
(地域公共交通確保維持改善事業費補助金)

令和元年 6 月 11 日に開催した本協議会において、令和元年 10 月 1 日～令和 2 年 9 月 30 日を対象とした、「令和 2 年 地域内フィーダー系統確保維持改善計画」を策定いただきました。

現在、この計画に基づいて、宇和島市コミュニティバス（別当・吉田・三間）及び宇和島自動車(株)の九島線が運行されており、運行終了後は国へ「地域公共交通改善事業費補助金」の交付申請を行う予定でございます。

一方、宇和島市三間町を運行する三間地区コミュニティバスにおいては、令和 2 年 9 月 1 日より民間バス路線の統廃合に伴う再編を予定しており、令和 2 年 1 月 23 日開催の本協議会において、運行内容等についてご審議の上、ご承認いただいております。

本議案は、令和 2 年 9 月からの三間地区コミュニティバスの再編を「令和 2 年 地域内フィーダー系統確保維持改善計画」に反映させることについて、ご承認いただきますよう提案するものです。

併せて、協議会での承認後、国へ変更の届出を行うにあたって軽微な修正等が必要となった場合は、事務局へ一任いただきますようお願いいたします。

以上。

議案第1号 令和2年 地域内フィーダー系統確保維持計画の変更について
資料の概要

【1】地域内フィーダー系統確保維持計画 本文（4ページ）

- 今回変更しない箇所は省略しています。
- 今回変更する箇所は、R2 事業年度の計画運行回数・目標利用者数です。
- 再編後の路線（路線名が赤字のもの）を追加し、計画運行回数と目標利用者数を新たに設定しています。
- 再編前の路線（川之内線、田川線、兼近線）については、計画期間が令和2年9月末であるのに対し、8月末で運行終了となることから、元々の目標数から1ヶ月分を差し引いた値に変更しています。

【2】地域内フィーダー系統確保維持計画 表1（5ページ）

- 本協議会の管内にあるフィーダー系統（国補助金の対象となる支線）をまとめた表です。
- 計画の本文と同様に、再編後の路線を追加するとともに、再編前の路線の運行日数等を1ヶ月分減らしています。

【3】計画運行回数等の設定について（6ページ～8ページ）

- 各路線の計画運行回数・目標利用者数の設定方法をまとめたものです。
- 上段が過去の実績値、下段が今回設定する目標値です。
- 定時定路線型の計画運行回数は、1日あたりの運行回数が決まっており、単純に運行日数をかけた数としているため、この資料には載せていません。

国土交通大臣 殿

氏名又は名称 宇和島市地域公共交通活性化協議会
住 所 愛媛県宇和島市曙町1番地
代表者氏名 会長 玉田 光彦 印

地域内フィーダー系統確保維持計画変更認定申請書

令和元年9月30日付け国総地第22号で国土交通大臣より認定された地域内フィーダー系統確保維持計画を別紙のとおり変更したいので、関係書類を添えて申請します。

- 変更日
令和2年9月1日

- 変更箇所
 1. 「川之内線（循環線）」「音地線（循環線）」「大藤線（循環線）」「増田線（循環線）」の新規追加。
 2. 「川之内線（往復線）」「田川線（デマンド便）」「兼近線（デマンド便）」の計画運行回数及び目標利用者数の減少。

- 変更理由
 1. 「川之内線（循環線）」「音地線（循環線）」「大藤線（循環線）」「増田線（循環線）」の新規追加。
愛媛県南予地域公共交通再編実施計画に基づく民間路線バスの統廃合に伴い、公共交通空白地域の解消のために三間地区コミュニティバスを再編（運行範囲の拡大）するもの。
 2. 「川之内線（往復線）」「田川線（デマンド便）」「兼近線（デマンド便）」の計画運行回数及び目標利用者数の減少。
1に伴い従来の路線での運航は行わなくなるため、9月分の計画運行回数及び目標利用者数を削るもの。

※本申請書に、変更する事項を全て記した地域内フィーダー系統確保維持計画を添付すること。
※「変更理由」は、事項ごとに具体的に記述すること。

1. 地域公共交通確保維持事業に係る目的・必要性（自由記述）

宇和島市は愛媛県の西南部（南予地方）に位置し、総面積が469.58km²、典型的なリアス式海岸が続く宇和海と山に囲まれた地形となっており、平成17年8月1日に旧宇和島市と北宇和郡吉田町、三間町、津島町が合併して誕生したまちである。

市内を運行する鉄道路線は、予讃線と予土線の二つのJR路線で、予讃線は当市から香川県高松市までを、予土線は当市から高知県高岡郡四万十町まで運行されている。

民間路線バスは、宇和島自動車株式会社により運行されており、当市以南に鉄道がないことから、市役所や公立病院、学校施設などの主要施設を結ぶ路線バスは、市民が生活するうえで極めて重要な役割を果たしている。しかしながら、近年は人口減少やマイカーの普及による輸送人員の減少で、厳しい経営を余儀なくされており、運行路線の見直しや、やむなく廃止された路線もある。

このように、地域の公共交通を取り巻く環境が厳しい中で、市民生活の利便性を確保し、公共交通の空白・不便地域を解消するため、今後もコミュニティバスの運行を確保・維持していく必要がある。

九島地区は、周囲約10km、人口約850人の離島である。島内には、小学校、幼稚園、診療所、公民館、派出所、郵便局等の主要施設がある。

平成28年4月に医療、福祉、消防等の行政サービスの地域間格差の解消のため、九島住民の長年の悲願であった九島架橋が完成したことに伴い、それまで本土への唯一の交通手段となっていた航路（九島～宇和島航路）が廃止。平成29年4月には小学校が本土に統合され、小学生は公共交通機関により通学を行っている。

このため、地域公共交通確保維持事業により、地域住民の通院、通学、買い物を中心とした生活に必要不可欠な足として平成28年4月より運行が開始された路線バス（きさいや広場～本九島）を確保・維持していく必要がある。

2. 地域公共交通確保維持事業に係る定量的な目標・効果（自由記述）

（1）目標

本計画における利便性を考慮した地域内フィーダー系統を計画どおり運行し、利用者数を維持していく。また、地域内フィーダー系統の経路又は運行ダイヤ等について、不断の見直しを行うとともに、路線ごとの運行実態を適切に把握し、効率的で利用者満足度の高い運行をめざす。

■ R2事業年度

運行形態	路線名	計画運行回数	目標利用者数
定時定路線型	大河内線	603回	2,300人
	大良線	1,446回	7,160人
	筋線	965回	2,400人
	川之内線	844回	1,558人
	川之内線(循環)	80回	160人
	音地線	90回	180人
	大藤線	60回	120人
	増田線	60回	120人

表1 地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する運行系統の概要及び運行予定者(地域内ファイダーシステム)

2年度

市区町村	運行予定者名	運行系統名 (申請番号)	運行系統			系統 キロ程	計画 運行 日数	計画 運行 回数	再 編 特 例 措 置	地域内ファイダーシステム (別表7及び別表9)		
			起点	経由地	終点					運行態様の 別	基準ロで 該当する 要件	接続する補助対象 地域間幹線系統等 との接続確保策
宇和島市	宇和島市	(1) 大河内線	吉田駅	立間小学校	大河内	往 6.1km 復 6.1km	241日	602.5回		①	宇和島自動車(株)の藤津・田之浜線吉田駅前バス停に接続	③
	宇和島市	(2) 大良線	吉田駅	吉田中学校	大良	往 14.1km 復 14.1km	241日	1,446回		①	宇和島自動車(株)の藤津・田之浜線吉田駅前バス停に接続	①
	宇和島市	(3) 筋線	吉田駅	吉田中学校	筋	往 11.6km 復 11.6km	241日	602.5回		①	宇和島自動車(株)の藤津・田之浜線吉田駅前バス停に接続	③
	宇和島市	(4) 筋線	吉田駅	鳥首口	筋	往 6.6km 復 6.6km	241日	361.5回		①	宇和島自動車(株)の藤津・田之浜線吉田駅前バス停に接続	③
	宇和島市	(5) 川之内線	務田	鬼ヶ峠	川之内	往 5.2km 復 5.0km	221日	221回		①	宇和島自動車(株)の宇和島～愛治線務田バス停に接続	③
	宇和島市	(6) 川之内線	三郎小学校	鬼ヶ峠	川之内	往 3.9km 復 3.6km	221日	552.5回		①	宇和島自動車(株)の宇和島～愛治線高野下バス停に接続	③
	宇和島市	(7) 川之内線(循環)	道の駅みま	川之内	道の駅みま	往 16.4km 復 16.4km	20日	80.0回		①	宇和島自動車(株)の宇和島～虹の森線道の駅みまバス停に接続	①
	宇和島市	(8) 音地線	三郎支所	音地集会所	音野下駅前	往 20.4km 復 20.4km	20日	90.0回		①	宇和島自動車(株)の宇和島～虹の森線ハコーブ三郎駅前バス停に接続	①
	宇和島市	(9) 大藤線	道の駅みま	大藤集会所	もみの木前	往 17.2km 復 17.2km	20日	60.0回		①	宇和島自動車(株)の宇和島～虹の森線道の駅みまバス停に接続	①
	宇和島市	(10) 増田線	道の駅みま	増田集会所	三郎支所	往 11.6km 復 11.6km	20日	60.0回		①	宇和島自動車(株)の宇和島～虹の森線道の駅みまバス停に接続	①
	宇和島市	(11) 別当線		別当		往 復 km	292日	1,250回		①	宇和島自動車(株)の宇和島～日吉・野村線市立病院前バス停に接続	③
	宇和島市	(12) 大河内線		大河内		往 復 km	241日	120回		①	宇和島自動車(株)の藤津・田之浜線吉田駅前バス停に接続	③
	宇和島市	(13) 川平線		川平		往 復 km	241日	20回		①	宇和島自動車(株)の藤津・田之浜線吉田駅前バス停に接続	③
	宇和島市	(14) 田川線		田川		往 復 km	221日	92回		①	宇和島自動車(株)の宇和島～愛治線務田バス停に接続	③
	宇和島市	(15) 兼近線		兼近		往 復 km	221日	18回		①	宇和島自動車(株)の宇和島～愛治線務田バス停に接続	③
	宇和島自動車(株)	(16) きさいや広場～本九島線		市立病院 きさいや広場	本九島	往 9.0km 復 9.0km	363日	3,225回		①	宇和島自動車(株)の宇和島～城辺線バスセンターに接続	③

計画運行回数の設定について

【定時定路線型】

(利用者数)

単位:人(各年10月1日～9月30日で集計)

路線名	項目	H31	H30	H29	H28	H27	H26
大河内線	目標	2,300	2,300	2,300	2,300	2,300	2,300
	実績	-	2,066	2,371	2,297	2,476	2,517
	実績－目標	-	-234	71	-3	176	217
	実績÷目標	-	89.8%	103.1%	99.9%	107.7%	109.4%
	当年実績－前年実績	-	-305	74	-179	-41	182
	当年実績÷前年実績	-	87.1%	103.2%	92.8%	98.4%	107.8%
大良線	目標	6,200	6,500	6,500	6,500	6,500	6,500
	実績	-	5,371	6,182	6,728	6,920	7,072
	実績－目標	-	-1,129	-318	228	420	572
	実績÷目標	-	82.6%	95.1%	103.5%	106.5%	108.8%
	当年実績－前年実績	-	-811	-546	-192	-152	224
	当年実績÷前年実績	-	86.9%	91.9%	97.2%	97.9%	103.3%
筋線	目標	2,300	2,000	2,000	2,000	1,200	1,200
	実績	-	2,413	2,461	2,239	2,239	2,428
	実績－目標	-	413	461	239	1,039	1,228
	実績÷目標	-	120.7%	123.1%	112.0%	186.6%	202.3%
	当年実績－前年実績	-	-48	222	0	-189	244
	当年実績÷前年実績	-	98.0%	109.9%	100.0%	92.2%	111.2%
川之内線	目標	1,700	2,000	2,000	2,000	3,200	3,200
	実績	-	1,394	1,653	1,751	1,946	2,109
	実績－目標	-	-606	-347	-249	-1,254	-1,091
	実績÷目標	-	69.7%	82.7%	87.6%	60.8%	65.9%
	当年実績－前年実績	-	-259	-98	-195	-163	-619
	当年実績÷前年実績	-	84.3%	94.4%	90.0%	92.3%	77.3%

※H31までは「大良線」は「中浦線」である

(目標利用者数の設定)

路線名	R2目標値	設定理由
大河内線	2,300人	H30(H29年10月～H30年9月)は、7月豪雨の影響で目標未達成となったが、H29以前は2,300人前後で推移しており、今後もこの利用を維持していくこととして前年と同様の2,300人とする。
大良線	7,160人	H30(H29年10月～H30年9月)は、7月豪雨の影響で目標未達成となったが、「大良」まで延伸することで、月80名の利用を見込み、目標値は前年同様の6,200人に960人を加えた7,160人とする。 ※月80名…延伸地域の20歳以上80名の署名により、延伸の陳情があったため、この人数を基にするもの。
筋線	2,400人	2年連続で2,400人を超えており、今後もこの利用を継続していくこととし、H31より100人増の2,400人を目標値とする。
川之内線	1,558人	主な利用は小学生(定期利用)だが、一般利用が年々減少している。R2年9月より民間バス路線の統廃合に合わせて再編の予定であるが、再編までの足として地域との協議の際等に周知を行うことで、前回に引き続きH29並みの年間1,700人の利用を目標としていたが、再編に伴い、9月分を除外する(11/12を乗じた値とする)。
川之内線	160人	運行経路・回数ともに従来路線と異なるため、1往復あたり2名の利用を目標値とする。 ※令和2年9月分のみ。
音地線	180人	運行経路・回数ともに従来路線と異なるため、1往復あたり2名の利用を目標値とする。 ※令和2年9月分のみ。
大藤線	120人	運行経路・回数ともに従来路線と異なるため、1往復あたり2名の利用を目標値とする。 ※令和2年9月分のみ。
増田線	120人	運行経路・回数ともに従来路線と異なるため、1往復あたり2名の利用を目標値とする。 ※令和2年9月分のみ。

【デマンド型】

(運行回数)

単位:回(各年10月1日～9月30日で集計)

路線名	項目	H31	H30	H29	H28	H27	H26
別当線	目標	1,250	1,121	1,386	1,470	1,540	1,580
	実績	-	1,497	1,133	1,022	1,260	1,345
	実績－目標	-	376	-253	-448	-280	-235
	実績÷目標	-	133.5%	81.7%	69.5%	81.8%	85.1%
	当年実績－前年実績	-	364	111	-238	-85	-59
	当年実績÷前年実績	-	132.1%	110.9%	81.1%	93.7%	95.8%
大河内線	目標	120	126	189	230	320	400
	実績	-	129	115	134	172	216
	実績－目標	-	3	-74	-96	-148	-184
	実績÷目標	-	102.4%	60.8%	58.3%	53.8%	54.0%
	当年実績－前年実績	-	14	-19	-38	-44	-78
	当年実績÷前年実績	-	112.2%	85.8%	77.9%	79.6%	73.5%
川平線	目標	80	21	-	-	-	-
	実績	-	15	-	-	-	-
	実績－目標	-	-	-	-	-	-
	実績÷目標	-	71.4%	-	-	-	-
	当年実績－前年実績	-	-	-	-	-	-
	当年実績÷前年実績	-	-	-	-	-	-
田川線	目標	100	96	189	230	125	150
	実績	-	64	76	89	172	216
	実績－目標	-	-32	-113	-141	47	66
	実績÷目標	-	66.7%	40.2%	38.7%	137.6%	144.0%
	当年実績－前年実績	-	-12	-13	-83	-44	99
	当年実績÷前年実績	-	84.2%	85.4%	51.7%	79.6%	184.6%
兼近線	目標	100	-	-	-	-	-
	実績	-	-	-	-	-	-
	実績－目標	-	-	-	-	-	-
	実績÷目標	-	-	-	-	-	-
	当年実績－前年実績	-	-	-	-	-	-
	当年実績÷前年実績	-	-	-	-	-	-

(計画運行回数の設定)

路線名	R2目標値	設定理由
別当線	1,250回	H30は被災された方が運行エリア内にある公営住宅へ転居し、デマンドを利用するケース等も見られ、目標値を上回っていたが、R2目標値は過去の利用状況も考慮し、H31同様の1,250回を目標値とする。
大河内線	120回	H30には下げ止まりが見られ目標値を上回っているが、大幅な増加ではなく、引き続き120回を維持することを目標とする。
川平線	20回	H30.4.1の運行開始から1年間の利用実績は運行回数15回、利用者数48人であった。現在のひと月あたり4名から1名ずつ増加する60人を利用者数の目標値とし、回数の目標値は、平均3人が乗合で利用しているため、 $60 \div 3 = 20$ 回とする。
田川線	92回	R2年9月より民間バス路線の統廃合に合わせて再編の予定であるが、再編までの足として地域との協議の際等に周知を行うことで、引き続き年100回の利用を目指すことを目標としていたが、再編に伴い、9月分を除外する(11/12を乗じた値とする)。
兼近線	18回	H30年10月の運行開始後、H30年10月～H31年4月の利用状況は、兼近発着が8回、利用者数が16人となっている。単純に2倍では年間16回となるが、同様の新規取組である川平線に合わせ、20回を目標値としていたが、再編に伴い、9月分を除外する(11/12を乗じた値とする)。

【デマンド型】
(利用者数)

単位:人(各年10月1日～9月30日で集計)

路線名	項目	H31	H30	H29	H28	H27	H26
別当線	目標	1,950	1,780	2,080	1,900	1,900	1,900
	実績	-	2,196	1,774	1,606	1,897	1,981
	実績－目標	-	416	-306	-294	-3	81
	実績÷目標	-	123.4%	85.3%	84.5%	99.8%	104.3%
	当年実績－前年実績	-	422	168	-291	-84	73
	当年実績÷前年実績	-	123.8%	110.5%	84.7%	95.8%	103.8%
大河内線	目標	200	172	310	320	420	440
	実績	-	210	200	180	283	328
	実績－目標	-	38	-110	-140	-137	-112
	実績÷目標	-	122.1%	64.5%	56.3%	67.4%	74.5%
	当年実績－前年実績	-	10	20	-103	-45	-90
	当年実績÷前年実績	-	105.0%	111.1%	63.6%	86.3%	78.5%
川平線	目標	260	28	-	-	-	-
	実績	-	44	-	-	-	-
	実績－目標	-	-	-	-	-	-
	実績÷目標	-	157.1%	-	-	-	-
	当年実績－前年実績	-	-	-	-	-	-
	当年実績÷前年実績	-	-	-	-	-	-
田川線	目標	100	110	220	230	170	170
	実績	-	84	83	94	204	259
	実績－目標	-	-	-137	-136	34	89
	実績÷目標	-	76.4%	37.7%	40.9%	120.0%	152.4%
	当年実績－前年実績	-	-	-11	-110	-55	112
	当年実績÷前年実績	-	-	88.3%	46.1%	78.8%	176.2%
兼近線	目標	100	-	-	-	-	-
	実績	-	-	-	-	-	-
	実績－目標	-	-	-	-	-	-
	実績÷目標	-	-	-	-	-	-
	当年実績－前年実績	-	-	-	-	-	-
	当年実績÷前年実績	-	-	-	-	-	-

(目標利用者数の設定)

路線名	R2目標値	設定理由
別当線	1,950人	H30は被災された方が運行エリア内にある公営住宅へ転居し、デマンドを利用するケース等も見られ、目標値を上回っていたが、R2目標値は過去の利用状況も考慮し、過去5年間平均値1,891回から、H31同様の1,950人を目標値とする。
大河内線	200人	H29から200人の利用が続いており、固定客の利用も見られることから、引き続きこの人数を維持していくことを目標とする。
川平線	60人	H30.4.1～H31.3.31までの利用実績は運行回数15回、利用者数48人であった。現在のひと月あたり4名から1名ずつ増加する60人を利用者数の目標値とする。
田川線	92人	R2年9月より民間バス路線の統廃合に合わせて再編の予定であるが、再編までの足として地域との協議の際等に周知を行うことで、引き続き年100人の利用を目指すことを目標としていたが、再編に伴い、9月分を除外する(11/12を乗じた値とする)。
兼近線	55人	H30年10月より運行開始のため上記の表に実績はないが、H30年10月～H31年4月の利用状況は、兼近発着が8回、利用者数が16人となっている。単純に2倍では年間32人となるが、同様の新規取組である川平線に合わせ、60人を目標値としていたが、再編に伴い、9月分を除外する(11/12を乗じた値とする)。

議案第 2 号

令和 3 年 地域内フィーダー系統確保維持計画の策定について (地域公共交通確保維持改善事業費補助金)

地域における公共交通は、マイカーの普及や人口減少といった要因から厳しい状況が続いています。

特に市町間を結ぶ幹線系統の支線となる系統(フィーダー系統)においては利用者が限られ、慢性的な赤字路線となっていますが、地域住民の生活の足として、存続が求められています。

このような生活交通路線を確保・維持するため、国により「地域公共交通改善事業費補助金」の交付が行われております。

本交付金を活用するためには、管轄する地域公共交通会議において「地域内フィーダー系統確保維持計画」が策定されていることが要件となっています。

宇和島市公共交通活性化協議会の管内においては宇和島市及び宇和島自動車株式会社の 2 者が交付対象となる路線を運行しており、これらの路線において本交付金を活用するため、別添のとおり計画を策定することについて、ご承認いただきますよう提案するものです。

併せて、協議会での承認後、国へ認定申請を行うにあたって軽微な修正等が必要となった場合は、事務局へ一任いただきますようお願いいたします。

以上。

議案第2号 令和3年 地域内フィーダー系統確保維持計画の策定について
資料の概要

【1】地域内フィーダー系統確保維持計画 本文（12ページ～17ページ）

- 「1. 地域公共交通確保維持事業に係る目的・必要性」には、本協議会の管内の状況と、コミュニティバス及び本九島線の必要性について記載しています。
- 「2. 定量的な目標・効果」には、路線ごとに計画運行回数及び目標利用者数を記載しています。
- 「3. 目標を達成するために行う事業及びその実施主体」には、宇和島市及び宇和島自動車(株)が行う取組を記載しています。
- 「4. 運行系統の概要及び運行予定者」は18ページのとおりです。
- 「5. 費用の負担者」は、コミュニティバス・本九島線ともに運行収入および国補助金を充て、不足する場合に宇和島市が負担することを記載しています。
- 「6. 補助対象事業者」は宇和島市と宇和島自動車(株)です。
- 項目の7～11、13～19は該当なしです。
- 「12. 地域の概要」は19ページのとおりです。
- 「20. 協議会の開催状況」には過去3年分の開催状況等を記載しています。
- 「21. 利用者等の意見の反映状況」には、これまでの主な意見の反映状況等を記載しています。
- 「22. 協議会メンバーの構成」は記載のとおりです。

【2】地域内フィーダー系統確保維持計画 表1（18ページ）

- 本協議会の管内にあるフィーダー系統(国補助金の対象となる支線)をまとめた表です。

【3】地域公共交通確保維持改善事業を行う地域の概要 表5（19ページ）

- 国補助金の対象となる地域と、その人口を示したものです。
- 人口集中地区以外か、交通不便地域のどちらか大きい方を採用しますが、宇和島市は全域が過疎地域の指定を受けているため、全域、全人口が対象となります。
- 国庫補助上限額は対象人口から、国の示す計算式で上限額を算定しています。

【4】計画運行回数等の設定について（20ページ～23ページ）

- 各路線の計画運行回数・目標利用者数の設定方法をまとめたものです。
- 過去5年間の実績表と、今回設定するR3目標値の表でセットになっています。
- 定時定路線型の計画運行回数は、1日あたりの運行回数が決まっており、単純に運行日数をかけた数としているため、この資料には載せていません。

国土交通大臣 殿

氏名又は名称 宇和島市地域公共交通活性化協議会
住 所 愛媛県宇和島市曙町1番地
代表者氏名 会長 玉田 光彦 印

地域内フィーダー系統確保維持計画認定申請書

地域内フィーダー系統確保維持計画を別紙のとおり定めたので、関係書類を添えて申請します。

※本申請書に、別添の記載すべき事項を全て記した地域内フィーダー系統確保維持計画を添付すること。

<p>生活交通確保維持改善計画の名称</p>
<p>地域内フィーダー系統確保維持計画</p>
<p>1. 地域公共交通確保維持事業に係る目的・必要性</p>
<p>宇和島市は愛媛県の西南部（南予地方）に位置し、総面積が469.58km²、典型的なりアス式海岸が続く宇和海と山に囲まれた地形となっており、平成17年8月1日に旧宇和島市と北宇和郡吉田町、三間町、津島町が合併して誕生したまちである。</p> <p>市内を運行する鉄道路線は、予讃線と予土線の二つのJR路線で、予讃線は当市から香川県高松市までを、予土線は当市から高知県高岡郡四万十町まで運行されている。</p> <p>民間路線バスは、宇和島自動車株式会社により運行されており、当市以南に鉄道がないことから、市役所や公立病院、学校施設などの主要施設を結ぶ路線バスは、市民が生活するうえで極めて重要な役割を果たしている。しかしながら、近年は人口減少やマイカーの普及による輸送人員の減少で、厳しい経営を余儀なくされており、運行路線の見直しや、やむなく廃止された路線もある。</p> <p>このように、地域の公共交通を取り巻く環境が厳しい中で、市民生活の利便性を確保し、公共交通の空白・不便地域を解消するため、今後もコミュニティバスの運行を確保・維持していく必要がある。</p> <p>九島地区は、周囲約10km、人口約819人の離島である。島内には、小学校、幼稚園、診療所、公民館、派出所、郵便局等の主要施設がある。</p> <p>平成28年4月に医療、福祉、消防等の行政サービスの地域間格差の解消のため、九島住民の長年の悲願であった九島架橋が完成したことに伴い、それまで本土への唯一の交通手段となっていた航路（九島～宇和島航路）が廃止。平成29年4月には小学校が本土に統合され、小学生は公共交通機関により通学を行っている。</p> <p>このため、地域公共交通確保維持事業により、地域住民の通院、通学、買い物を中心とした生活に必要な足として平成28年4月より運行が開始された路線バス（きさいや広場～本九島）を確保・維持していく必要がある。</p>
<p>2. 地域公共交通確保維持事業の定量的な目標・効果</p>
<p>（1）事業の目標</p>

本計画における利便性を考慮した地域内フィーダー系統を計画どおり運行し、利用者数を維持していく。また、地域内フィーダー系統の経路又は運行ダイヤ等について、不断の見直しを行うとともに、路線ごとの運行実態を適切に把握し、効率的で利用者満足度の高い運行をめざす。

(宇和島市地域公共交通網形成計画 P. 26 参照)

■ R3事業年度

運行形態	路線名	計画運行回数	目標利用者数
定時定路線型	大河内線	610回	2,200人
	大良線	1,464回	7,160人
	筋線	976回	2,300人
	川之内線	976回	1,952人
	音地線	1,098回	2,196人
	大藤線	732回	1,464人
	増田線	732回	1,464人
デマンド型	別当線	1,400回	2,000人
	大河内線	120回	200人
	川平線	50回	60人
定時定路線型	きさいや広場 ～本九島線	3,225回	36,825人

(2) 事業の効果

利用者ニーズに即した運行形態の導入と運行体制の整備により、地域に愛される交通網を構築し、高齢者の外出促進と活動機会を増加させることにより、将来にわたる地域住民の生活交通の確保・維持につながる。

3. 2. の目標を達成するために行う事業及びその実施主体

- ・ 広報誌等での周知（宇和島市）
- ・ 定時定路線型の公共交通ネットワーク（鉄道、路線バス、コミュニティバス、離島航路）が一目で分かる公共交通マップの作成・市内全戸配布（宇和島市）
- ・ ホームページでのバスの乗り方の周知（宇和島自動車株式会社）
- ・ 小学生等を対象としたバスの乗り方教室の実施（宇和島市、宇和島自動車株式会社）
（宇和島市地域公共交通網形成計画 P. 28、29 参照）

4. 地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する運行系統の概要及び運行予定者

別紙（表1）のとおり。

5. 地域公共交通確保維持事業に要する費用の負担者

宇和島市が運行するコミュニティバスに要する費用には運行収入及び国庫補助金を充て、不足分は宇和島市が負担する。

宇和島自動車株式会社の運行する「きさいや広場～本九島線」については、運行収入及び国庫補助金を運行経費から差し引いた差額分を宇和島市が補助金として交付することとしている。

6. 補助金の交付を受けようとする補助対象事業者の名称

宇和島市
宇和島自動車株式会社

**7. 補助を受けようとする手続きに係る利用状況等の継続的な測定方法
【活性化法定協議会を補助対象事業者とする場合のみ】**

※該当なし

**8. 別表1の補助対象事業の基準ニただし書に基づき、協議会が平日1日当たりの運行回数が3回以上で足りると認めた系統の概要
【地域間幹線系統のみ】**

※該当なし

**9. 別表1の補助対象事業の基準ハに基づき、協議会が「広域行政圏の中心市町村に準ずる生活基盤が整備されている」認めた市町村の一覧
【地域間幹線系統のみ】**

※該当なし

**10. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項
【地域間幹線系統のみ】**

※該当なし

**11. 外客来訪促進計画との整合性
【外客来訪促進計画が策定されている場合のみ】**

※該当なし

**12. 地域公共交通確保維持改善事業を行う地域の概要
【地域内フィーダー系統のみ】**

別紙（表5）のとおり。

**13. 車両の取得に係る目的・必要性
【車両減価償却費等国庫補助金・公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けよ**

うとする場合のみ】
※該当なし
14. 車両の取得に係る定量的な目標・効果 【車両減価償却費等国庫補助金・公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けようとする場合のみ】
(1) 事業の目標
※該当なし
(2) 事業の効果
※該当なし
15. 車両の取得計画の概要及び車両の取得を行う事業者又は地方公共団体、要する費用の負担者【車両減価償却費等国庫補助金・公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けようとする場合のみ】
※該当なし
16. 老朽更新の代替による費用の削減等による地域公共交通確保維持事業における収支の改善に係る計画（車両の代替による費用削減等の内容、代替車両を活用した利用促進策） 【公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けようとする場合のみ】
※該当なし
17. 貨客混載の導入に係る目的・必要性 【貨客混載導入経費国庫補助金を受けようとする場合のみ】
※該当なし
18. 貨客混載の導入に係る定量的な目標・効果 【貨客混載導入経費国庫補助金を受けようとする場合のみ】
(1) 事業の目標
※該当なし
(2) 事業の効果
※該当なし
19. 貨客混載の導入に係る計画の概要、要する費用の総額、内訳、負担者及び負担額【貨客混載導入経費国庫補助金を受けようとする場合のみ】
※該当なし

20. 協議会の開催状況と主な議論

平成 30 年度

平成 30 年 5 月 7 日 【書面開催】	津島地区コミュニティバスの延伸について
平成 30 年 6 月 27 日	地域内フィーダー系統確保維持計画について 三間地区コミュニティバスの兼近線新設について
平成 30 年 10 月 12 日	地域公共交通網形成計画（現状等の整理）
平成 31 年 1 月 28 日	地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について 地域公共交通網形成計画（調査結果等の整理、骨子案の検討）
平成 31 年 3 月 25 日	地域公共交通網形成計画（素案の検討）

令和元年度

令和元年 5 月 17 日 【書面開催】	南予地域公共交通再編実施計画に基づく路線バスの再編について
令和元年 6 月 11 日	地域内フィーダー系統確保維持計画について 地域公共交通網形成計画（計画の策定）
令和元年 7 月 31 日 【書面開催】	自家用有償旅客運送の変更登録について 地域内フィーダー系統確保維持改善計画の変更について
令和元年 8 月 30 日 【書面開催】	鬼北町コミュニティバスの大内駅への乗り入れについて
令和 2 年 1 月 23 日	地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について 南予地域公共交通再編実施計画に基づくバス路線の再編について 自家用有償旅客運送の変更登録について 別当地区デマンドタクシーの停留所変更について 宇和島市地域公共交通網形成計画事業の進捗について

令和 2 年度

令和 2 年 6 月 日 【書面開催】	地域内フィーダー系統確保維持改善計画の変更について 地域内フィーダー系統確保維持計画について
------------------------	---

21. 利用者等の意見の反映状況

コミュニティバスの利用者アンケートを実施し、別当地区においては運行予約を「1時間前」から「30分前」に短縮、吉田地区においてはダイヤ改正、三間地区においてはデマンド運行のバス停を増設するなど、利用者の意見を反映した施策を実施した。

なお、協議会の構成員には、市内自治会連合会や老人クラブ、PTA連合会、女性団体連絡協議会といった住民組織の各代表が含まれており、住民意見が計画事業に反映される仕組みを設けている。

また、地域からの要望を受けて延伸や運行範囲の拡大を行う際には、あらかじめ目標利用者数等について地域と協議し、利用が少ない場合は見直しが必要となることを共有することで、地域においても利用を促進いただいている。

きさいや広場～本九島線を新設するにあたっては、平成 26 年 8 月に建設課が実施した九島架橋事業に関するアンケート調査及び、平成 27 年 12 月に開催した九島架橋開通に係る関係事項説明会での島民の意見をダイヤ、ルート設定等の参考とした。

22. 協議会メンバーの構成員	
関係都道府県	愛媛県南予地方局建設部建設企画課
関係市区町村	宇和島市総務企画部企画情報課 宇和島市建設部建設課
交通事業者・交通施設管理者等	四国旅客鉄道株式会社、 宇和島自動車株式会社、一般社団法人愛媛県バス協会、 南予ハイヤー協議会、宇和島ハイヤー株式会社、 大洲河川国道事務所、宇和島警察署
地方運輸局	四国運輸局愛媛運輸支局
その他協議会が必要と認める者	宇和島市連合自治会、宇和島市PTA連合会、 宇和島市女性団体連絡協議会、宇和島市老人クラブ連合会、 宇和島自動車労働組合、宇和島市観光物産協会

表1 地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する運行系統の概要及び運行予定者(地域内フィーダー系統)

市区町村	運行予定者名	運行系統名 (申請番号)	運行系統			系統 キロ程	計画 運行 日数	計画 運行 回数	再 編 特 例 措 置	地域内フィーダー系統の基準適合 (別表7及び別表9)		
			起点	経由地	終点					運行態様の 別	基準口で 該当する 要件	接続する補助対象 地域間幹線系統等 との接続確保策
宇和島市	宇和島市	(1) 大河内線	吉田駅	立間小学校	大河内	往 6.1km 復 6.1km	244日	610.0回		①	宇和島自動車(株)の津津・田之浜線吉田駅前バス停に接続	③
		(2) 大良線	吉田駅	吉田中学校	大良	往 14.1km 復 14.1km	244日	1,464.0回		①	宇和島自動車(株)の津津・田之浜線吉田駅前バス停に接続	③
		(3) 筋線	吉田駅	吉田中学校	筋	往 11.6km 復 11.6km	244日	610.0回		①	宇和島自動車(株)の津津・田之浜線吉田駅前バス停に接続	③
		(4) 筋線	吉田駅	鳥首口	筋	往 6.6km 復 6.6km	244日	366.0回		①	宇和島自動車(株)の津津・田之浜線吉田駅前バス停に接続	③
		(5) 川之内線	道の駅みま	川之内	道の駅みま	往 16.4km 復 16.4km	244日	976.0回		①	宇和島自動車(株)の宇和島～新の森線道の駅みまバス停に接続	①
		(6) 音地線	三間支所	音地集会所	音地下駅前	往 20.4km 復 20.4km	244日	1,098.0回		①	宇和島自動車(株)の宇和島～虹の森線Aコープ三間前バス停に接続	①
		(7) 大藤線	道の駅みま	大藤集会所	もみの木町	往 17.2km 復 17.2km	244日	732.0回		①	宇和島自動車(株)の宇和島～虹の森線道の駅みまバス停に接続	①
		(8) 増田線	道の駅みま	増田集会所	三間支所	往 11.6km 復 11.6km	244日	732.0回		①	宇和島自動車(株)の宇和島～虹の森線道の駅みまバス停に接続	①
		(9) 別当線		別当		往 復	292日	1,400回		①	区域運行	③
		(10) 大河内線		大河内		往 復	244日	120回		①	区域運行	③
		(11) 川平線		川平		往 復	244日	100回		①	区域運行	③
		(12) ざさいや広場～本九島線		ざさいや広場～本九島線	ざさいや広場	市立病院	本九島	往 9.0km 復 9.0km	362日	3,225回		①

(注)

1. 区域運行の場合は、運行系統の「経由地」に営業区域を記することとし、「系統キロ程」について記載を要しない。
2. 「系統キロ程」については、小数点第1位(第2位以下切り捨て)まで記載すること。なお、循環系統の場合には、往又は復のどちらかの欄にキロ程を記載し、もう片方の欄に「循環」と記載すること。
3. 「再編特例措置」については、地域公共交通再編実施計画の認定を受け、地域内フィーダー系統に係る特例措置の適用(別表9)を受けて補助対象となる場合のみ「○」を記載する。
4. 「運行態様の別」については、路線定期運行、路線不定期運行、区域運行の別を記載すること。
5. 「接続する補助対象地域間幹線系統等と接続確保策」については、地域内フィーダー系統が接続する補助対象地域間幹線系統又は地域間交通ネットワークと、どのように接続を確保するかについて記載する。
6. 本表に記載する運行予定系統を示した地図及び運行ダイヤを添付すること。

表5 地域公共交通確保維持改善事業を行う地域の概要

市区町村名	宇和島市
-------	------

(単位:人)

	人口
人口集中地区以外	45,538
交通不便地域	77,465

交通不便地域の内訳

人口	対象地区	根拠法
77,465	宇和島市全域	過疎地域自立促進特別措置法
660	宇和島市、津島町	離島振興法

地域公共交通網形成計画、地域公共交通再編実施計画の策定年月日及び算定式適用開始年度

計画名	策定年月日	算定式適用開始年度
宇和島市地域公共交通網形成計画	令和元年7月1日	令和元年度
南予地域公共交通再編実施計画	令和2年9月1日	令和2年度

(※参考)

対象人口	算定式	国庫補助上限額
77,465	対象人口 × 240円 + 610万円(定額)	24,691,000

(※) 省略可。

協議会において承認を得る必要があるなど、自治体の必要性に応じて記載可。

なお、記載する場合の適用算定式においては、直近の地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金に係る国庫補助上限額の算定式をご活用ください。

(1) 記載要領

1. 人口は最新の国勢調査結果を基に記載すること。ただし、地方運輸局長等が指定する交通不便地域の場合は、申請する年度の前年度の3月末現在の住民基本台帳を基に記載すること。
※なお、実施要領等で別に定める場合は、それによること。
2. 「人口集中地区以外」の欄は、国勢調査結果により設定された人口集中地区に該当しない地区の人口を記載すること。
3. 「交通不便地域」の欄は、地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱(以下、「交付要綱」という。)の別表7(口②(1))に記載のある過疎地域の人口及び交付要綱別表7(口②(2)(実施要領の2.(1)⑭))に基づき地方運輸局長等が指定する交通不便地域の人口の合計(重複する場合を除く)を記載すること。

計画運行回数の設定について

【定時定路線型】

(利用者数)

単位:人(各年10月1日～9月30日で集計)

路線名	項目	R2	R1	H30	H29	H28	H27
大河内線	目標	2,300	2,300	2,300	2,300	2,300	2,300
	実績	-	1,859	2,066	2,371	2,297	2,476
	実績－目標	-	-441	-234	71	-3	176
	実績÷目標	-	80.8%	89.8%	103.1%	99.9%	107.7%
	当年実績－前年実績	-	-207	-305	74	-179	-41
	当年実績÷前年実績	-	90.0%	87.1%	103.2%	92.8%	98.4%
大良線	目標	7,160	6,200	6,500	6,500	6,500	6,500
	実績	-	7,906	5,371	6,182	6,728	6,920
	実績－目標	-	1,706	-1,129	-318	228	420
	実績÷目標	-	127.5%	82.6%	95.1%	103.5%	106.5%
	当年実績－前年実績	-	2535	-811	-546	-192	-152
	当年実績÷前年実績	-	147.2%	86.9%	91.9%	97.2%	97.9%
筋線	目標	2,400	2,300	2,000	2,000	2,000	1,200
	実績	-	2,147	2,413	2,461	2,239	2,239
	実績－目標	-	-153	413	461	239	1,039
	実績÷目標	-	93.3%	120.7%	123.1%	112.0%	186.6%
	当年実績－前年実績	-	-266	-48	222	0	-189
	当年実績÷前年実績	-	89.0%	98.0%	109.9%	100.0%	92.2%
川之内線	目標	160					
	実績	-					
	実績－目標	-					
	実績÷目標	-					
	当年実績－前年実績	-					
	当年実績÷前年実績	-					
音地線	目標	180					
	実績	-					
	実績－目標	-					
	実績÷目標	-					
	当年実績－前年実績	-					
	当年実績÷前年実績	-					
大藤線	目標	120					
	実績	-					
	実績－目標	-					
	実績÷目標	-					
	当年実績－前年実績	-					
	当年実績÷前年実績	-					
増田線	目標	120					
	実績	-					
	実績－目標	-					
	実績÷目標	-					
	当年実績－前年実績	-					
	当年実績÷前年実績	-					
【参考】 川之内線 (再編前)	目標	1,700	1,700	2,000	2,000	2,000	3,200
	実績	-	1,197	1,394	1,653	1,751	1,946
	実績－目標	-	-503	-606	-347	-249	-1,254
	実績÷目標	-	70.4%	69.7%	82.7%	87.6%	60.8%
	当年実績－前年実績	-	-197	-259	-98	-195	-163
	当年実績÷前年実績	-	85.9%	84.3%	94.4%	90.0%	92.3%

(目標利用者数の設定)

路線名	R3目標値	設定理由
大河内線	2,200人	平成30年7月豪雨災害以後、減少傾向にある。コミュニティバスを含めた公共交通マップの配布等の利用促進により、過去5年平均の2,200人の利用を目標とする。
大良線	7,160人	平成30年7月豪雨後、臨時的に小学生が通学利用しているため利用人数が伸びている。道路状況の改善に伴い徒歩通学に戻る予定であるため、R3目標値はR2同様に従来の中浦線目標数に延伸区間である大良地区の利用見込み(80名×月1回×12ヶ月=960)を加えた7,160人とする。
筋線	2,300人	平成30年7月豪雨災害以後、減少傾向にある。コミュニティバスを含めた公共交通マップの配布等の利用促進により、過去5年平均の2,300人の利用を目標とする。
川之内線	1,952人	令和2年9月より路線の再編が行われるもの。 1往復あたり2人の利用を目標値とする。
音地線	2,196人	令和2年9月より路線の再編が行われるもの。 1往復あたり2人の利用を目標値とする。
大藤線	1,464人	令和2年9月より路線の再編が行われるもの。 1往復あたり2人の利用を目標値とする。
増田線	1,464人	令和2年9月より路線の再編が行われるもの。 1往復あたり2人の利用を目標値とする。

【デマンド型】

(運行回数)

単位:回(各年10月1日～9月30日で集計)

路線名	項目	R2	R1	H30	H29	H28	H27
別当線	目標	1,250	1,250	1,121	1,386	1,470	1,540
	実績	-	1,566	1,497	1,133	1,022	1,260
	実績-目標	-	316	376	-253	-448	-280
	実績÷目標	-	125.3%	133.5%	81.7%	69.5%	81.8%
	当年実績-前年実績	-	69	364	111	-238	-85
	当年実績÷前年実績	-	104.6%	132.1%	110.9%	81.1%	93.7%
大河内線	目標	120	120	126	189	230	320
	実績	-	57	129	115	134	172
	実績-目標	-	-63	3	-74	-96	-148
	実績÷目標	-	47.5%	102.4%	60.8%	58.3%	53.8%
	当年実績-前年実績	-	-72	14	-19	-38	-44
	当年実績÷前年実績	-	44.2%	112.2%	85.8%	77.9%	79.6%
川平線	目標	20	80	21			
	実績	-	2	15			
	実績-目標	-	-	-			
	実績÷目標	-	2.5%	71.4%			
	当年実績-前年実績	-	-	-			
	当年実績÷前年実績	-	-	-			

(計画運行回数の設定)

路線名	R3目標値	設定理由
別当線	1,400回	R2事業年度は10月～3月の半年で736回の運行となっており、新型コロナウイルスの影響がなければ3年連続で1,500回程度の利用見込であった。平成30年7月豪雨災害の被災者の転居等の事例も見受けられるが、近年の利用状況も考慮し、R3目標値は1,400回へ上昇させる。
大河内線	120回	R1に大きく利用が下がったが、現在運行中のR2事業年度は10月～3月の半年で64回、86人となっており、H30以前同等の利用が見込まれるため、目標値は据え置き120回とする。
川平線	50回	利用の低迷について地域住民と協議を行い、再度地域内で利用促進を行うこととした。月3～4人の利用需要はあるとのことで、月4回×12ヶ月=48≒50回を目標とする。

【デマンド型】

(利用者数)

単位:人(各年10月1日～9月30日で集計)

路線名	項目	R2	R1	H30	H29	H28	H27
別当線	目標	1,950	1,950	1,780	2,080	1,900	1,900
	実績	-	2,321	2,196	1,774	1,606	1,897
	実績－目標	-	371	416	-306	-294	-3
	実績÷目標	-	119.0%	123.4%	85.3%	84.5%	99.8%
	当年実績－前年実績	-	125	422	168	-291	-84
	当年実績÷前年実績	-	105.7%	123.8%	110.5%	84.7%	95.8%
大河内線	目標	200	200	172	310	320	420
	実績	-	85	210	200	180	283
	実績－目標	-	-115	38	-110	-140	-137
	実績÷目標	-	42.5%	122.1%	64.5%	56.3%	67.4%
	当年実績－前年実績	-	-125	10	20	-103	-45
	当年実績÷前年実績	-	40.5%	105.0%	111.1%	63.6%	86.3%
川平線	目標	60	260	28			
	実績	-	5	44			
	実績－目標	-	-255	-			
	実績÷目標	-	1.9%	157.1%			
	当年実績－前年実績	-	-39	-			
	当年実績÷前年実績	-	11.4%	-			

(目標利用者数の設定)

路線名	R3目標値	設定理由
別当線	2,000人	R2事業年度は10月～3月の半年で1,013人が利用しており、新型コロナウイルスの影響がなければ3年連続で2,000人を超える見込であった。平成30年7月豪雨災害の被災者の転居等の事例も見受けられるが、近年の利用状況も考慮し、R3目標値は2,000人へ上昇させる。
大河内線	200人	R1に大きく利用が下がったが、現在運行中のR2事業年度は10月～3月の半年で64回、86人となっており、H30以前同等の利用が見込まれるため、目標値は据え置き200人とする。
川平線	60人	利用の低迷について地域住民と協議を行い、再度地域内で利用促進を行うこととした。月3～4人の利用需要はあるとのことで、月4人×12ヶ月＝48≒50人を基準として、利用促進により月あたり1名の増加を見込み、R2同様60人を目標値とする。

(報告事項)

宇和島市地域公共交通網形成計画事業の進捗について

令和元年7月に策定した宇和島市地域公共交通網形成計画では、事業の計画的な推進と目標達成のため、毎年6月と1月の協議会において事業の実施状況の確認と評価を行うとともに、必要に応じて内容変更や追加事業案の提案・検討を行うこととしております。

今回は6月の協議会が書面での開催となったため、進捗状況の報告のみ行わせていただきます。

以上。

宇和島市地域公共交通網形成計画に位置付ける事業

事業		実施状況(令和2年6月現在)
①	公共交通マップ、乗継時刻表の整備	公共交通マップのデータは令和2年3月に完成。広報8月号(7月下旬配布)にて市内全戸に配布を予定。
②	乗り方教室、交通安全教室を通じた利用促進	令和2年2月に鶴島小学校においてバスの乗り方教室を開催。令和2年度は2校での実施に向けて検討中。
③	路線の案内方法・情報発信方法の改善	バス路線の色分けについて既存の統一色分けが存在しなかつたため、公共交通マップ作成の中で設定。
④	イベント時等での公共交通利用を促進する情報発信方法の検討	公共交通マップへ市主要施設(体育館、ホール等含む)を掲載。今後、これを活用してイベント時等での利用促進を図る。
⑤	免許返納に向けた取り組み	実施内容検討中。
⑥	交通結節点・乗継拠点の整備	実施内容検討中。
⑦	地域でバス等の待合空間を整備・維持管理できる仕組みの構築	実施内容検討中。
⑧	バリアフリー化への対応	車両購入時等、各主体にて随時実施。
⑨	モビリティ・マネジメントの実施	実施内容検討中。
⑩	タクシー活用制度の構築	実施内容検討中。
⑪	バス路線網の再編	愛媛県の南予地域再編実施計画に基づき、令和元年10月1日に水産試験場前線と船間線を再編済み。令和2年9月1日に愛治診療所前線を再編するとともに、三間地区コミュニティバスを再編予定。
⑫	地域主体で行うコミュニティバス等の取組を支援する仕組みの構築	実施内容検討中。
⑬	公共交通の利用状況に関する広報に関する取組の実施	実施内容検討中。
⑭	必要な路線への支援体制の検討	生活交通バス路線への支援を拡充。
⑮	運転士確保に向けた取組の実施	愛媛県地域公共交通網形成計画における事業と連携して随時実施。
⑯	市の施策検討における交通事業者の参画に向けた仕組みの構築	計画等の策定時に随時実施。
⑰	公共交通の利用者の意見を聞く場の創設	実施内容検討中。
⑱	公共交通機関の役割分担と連絡調整に関する場の創設	実施内容検討中。